臺灣日日新報 夕刊

（第二版）（原版配給）（明治一一年五月九日第三種郵便物認可）

昭和十三年一月二十八日（金曜日）

一月二十七日

夕刊定期一個月一部一錢二厘

臺北市榮町四丁目番地 佐々木 舜一

臺北（代表）一四四番 基隆支局 臺中支局 臺南支局 高雄支局 花蓮港支局 大阪市西區江戸堀通一丁目 大阪支局 大阪市西區江戸堀北通二丁目（ユタカビルディング内） 東京支局 東京市麹町區有樂町一丁目 東京支局

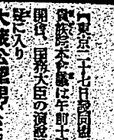
第一万三千五百九十七號

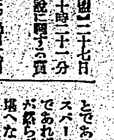
帝人事件で宮脇氏を痛論

法相の責任を糺す 小山氏質問

日産問題で

衆議院豫算總會





【東京二十七日發同盟】二十七日の衆議院豫算總會は午前十時二十二分開會、國務大臣の演說に對する質疑に入り

大藏公望男（公正）昨日大河内氏の質問に對する池田大藏大臣の答辯中、政治の中心は内閣にあり、内閣にては本院に對し責任を負ふべきものであるから、斯かる答辯は不當であるとの點に關しては、私は全然同感である、併しながら内閣の改造に就ては、私の考へを述べるならば先づ議會の存續を認めねばならぬと信ずる、現在の政黨政治は甚だ不健全であつて二大政黨に絶對に權力が集中するが如き事態にあるが、之等の者に依つて果して今日の難局が收拾出來るであらうか、今日我國の政治は全體的に一大革新を斷行しなければならぬ時機に到達して居ると思ふ、此の點に關しては大藏大臣も同感であらうが、之に對する大臣の所信如何

小山谷藏氏（民政）國際關係の緊迫に伴ひ國防の充實は刻下の急務であるが、之が財源の捻出は國民の負擔增加となるので、之が爲には先づ行政の整理緊縮を斷行して、之が財源を生み出すべきであると思ふが、之に對する大藏大臣の所信如何

杉山陸相　今日のこの非常時局に於いて國防の充實と國力の擴充とを圖ることは、最も緊要なことであると考へるのであります、從つて之が爲には、或る程度の負擔增加は已むを得ないと考へるのであります、又豫算の編成に當りましても、出來得る限り國防の充實を圖つたのであります

小山氏　國防費の增加は已むを得ないとしても、之が財源を公債に仰ぐことは、我が國の財政經濟の現狀に鑑みて、將來に非常なる禍根を殘すものであると思ふが、之に對する大藏大臣の所信如何

池田大藏大臣　國防の充實を圖ることは、現在の如く國際關係が緊迫して參りますと、之は已むを得ないと考へるのであります、從つて之が財源を公債に仰ぐことは、將來に禍根を殘すものであるとの御意見は、誠に御尤もであると存じますが、現在の如く軍備擴張の急を要する場合に於きましては、之が財源を公債に仰ぐことは、已むを得ないものと考へるのであります

小山氏　國防費の增加は已むを得ないとしても、之が財源を公債に仰ぐことは、我が國の財政經濟の現狀に鑑みて、將來に非常なる禍根を殘すものであると思ふが、之に對する大藏大臣の所信如何

池田大藏大臣　國防の充實を圖ることは、現在の如く國際關係が緊迫して參りますと、之は已むを得ないと考へるのであります、從つて之が財源を公債に仰ぐことは、將來に禍根を殘すものであるとの御意見は、誠に御尤もであると存じますが、現在の如く軍備擴張の急を要する場合に於きましては、之が財源を公債に仰ぐことは、已むを得ないものと考へるのであります、又豫算の編成に當りましても、出來得る限り國防の充實を圖つた

ギャング事件に頻發す　邦字紙立ちあがる

ダバオで對策協議會を開き　強固意見を決議！

【ダバオ二十六日發電通信】近時屢々たるギャング事件はその後絶えず邦人の被害は日に日に増加する実況に鑑み昨二十五日午後二時より南興時報、ダバオ公論の邦字新聞二社は該事件の徹底を計つて緊急協議會を開催、ダバオ公立の為め邦人會長の歐、日本人會長の歐、マラゴス農友會長の歐諸氏を招き開催、日本人會員の總會を開き一致左の決議をなし本日日本人會員會に提出邦人全體の大問題として解決に當る事になつた

一、決　議

二、最近日本人を目標とする頻々たる強行被害事件に依て無辜の犠牲に陥れる不安なる情勢に鑑み當局は結束して比島當局に可及的速に厳重なる取締を要求する事

三、マラゴスに比島警察兵力を少くとも現在の五倍に増員方要求する事

本決議文は一は領事より通して比島當局に手交して善處を求め一は日本人會に提出して之が実現を期す右決議す

北埔庄長

公金私用の廉び

【新竹電話】新竹州竹東郡北埔庄長林間氏は北埔庄に第任早々同庄林業振興會の資金千円を流用し木炭及その他の商業に手を染めたが近來業績振はず缺損を来してゐるとの風説に北埔分室監督官は同庄長の手で取調べられてゐる、曾同庄長は既に辞表を提出して居り一般庄民も既存在視してゐる

鈴木同盟太原支局長

ついに病歿す

【石家莊二十六日發同盟】去る十三日正午縦隊病院で敗殘兵の襲撃を受け手榴彈の為め両足に重傷を負つた同盟通信太原支局長鈴木二郎氏は百武部隊の軍醫の治療甲斐もあつたが二十六日午前十一時遂に病歿した

女給の縊死

ヒステリーが嵩じ

台北市榕樹脚一の一九カフエー・モンパリ倶楽部内女給福一事新聞タカ子(二七)が二十七日午前零時十五分頃前記倶楽部内で細紐で梁に縊死を遂げてゐるのを外出先から帰宅した同女の夫の發見した、原因は同女はかねて持前の神経質からヒステリー気味のそれが最近天の他出勝ちの為に怠して店もこれまで無断欠だつたのがこの数日は休みが多かつた、処へ自殺當夜も夫が外出したため發作的に

高雄の防空演習

昨夜緊張裡に擧行

【高雄電話】高雄市内を區域とする高州市聯合の防空演習は二十六日午後七時半より開始二十六日午後七時半より開始され一般市民は一斉に燈火管制に移り同八時十分を期し解除警報發令に入り同七時四十五分空襲警報が發せられ金市附属の砦と化したこの間敵機の空襲を受け州廳前金福町に投彈爆撃小に焼夷弾及びガス彈投下組織十數等の防火救護隊防空隊を編成されたとの想定の下に所轄消防組に於て第二十六日午前零時十五分頃前記倶楽部内で細紐で梁に縊死を遂げてゐるのを外出先から帰宅した同女の夫の發見した、原因は同女はかねて持前の神経質からヒステリー気味のそれが最近天の他出勝ちの為に怠して店もこれまで無断欠だつたのがこの数日は休みが多かつた、処へ自殺當夜も夫が外出したため發作的に

海の强者還へ

慰問學藝會

【○○電話】○○市では二十五日○○に入港した旅艦○○及び二十六日朝入港した○○艦の乗組下士官兵の慰安を兼ね○○學校講堂に於て風景の幻燈會と開催に一同を招待したが水兵さん達も大喜びで和やかな會合であつた

青島市街を警備する我が陸戦隊

海軍省検閲濟

人道問の呼號の下に民族を喋かし惑溺、憂苦を強にするに至つたため省政府は大に狼狽し救旨の保安隊の派遣となつたが領事による保安隊のことで同士討ちを恐れて領事館の如くならず當局をして苦しく關係せしめて居る

太原、南京を奪回〝と

思ひ切つた虚報で宣傳

助からない福建省民

共に支那軍の劣勢に鑑み各点が行き後つて軍隊に對する同情と同情は内心憤慨と軽蔑に変り自然離散肚し、敵國人個の關係、軍艦砲金等の破壊益々不良となつたので

門艦在の支那軍は信用毀損と此の激反せる民心を引戻すため去る十五日廈門、石碼、漳州、梁州の各地方當局に對し太原、南京を奪回せる當の戦報を大々的に宣傳し是等

各地の市街に戦い民衆に向し傷行を喚らして領袖をさせた上例の如く敬意を申付けたと云ふが實際の民衆こそ迷惑の種だ

北埔庄長

公金私用の廉び

【新竹電話】新竹州竹東郡北埔庄長林間氏は北埔庄に第任早々同庄林業振興會の資金千円を流用し木炭及その他の商業に手を染めたが近來業績振はず缺損を来してゐるとの風説に北埔分室監督官は同庄長の手で取調べられてゐる、曾同庄長は既に辞表を提出して居り一般庄民も既存在視してゐる

鈴木同盟太原支局長

ついに病歿す

【石家莊二十六日發同盟】去る十三日正午縦隊病院で敗殘兵の襲撃を受け手榴彈の為め両足に重傷を負つた同盟通信太原支局長鈴木二郎氏は百武部隊の軍醫の治療甲斐もあつたが二十六日午前十一時遂に病歿した

女給の縊死

ヒステリーが嵩じ

台北市榕樹脚一の一九カフエー・モンパリ倶楽部内女給福一事新聞タカ子(二七)が二十七日午前零時十五分頃前記倶楽部内で細紐で梁に縊死を遂げてゐるのを外出先から帰宅した同女の夫の發見した、原因は同女はかねて持前の神経質からヒステリー気味のそれが最近天の他出勝ちの為に怠して店もこれまで無断欠だつたのがこの数日は休みが多かつた、処へ自殺當夜も夫が外出したため發作的に

韓血祭りの日

沈は主席に就任

勢力爭ひの結末

【上海二十五日發本社電報】韓復榘の後任として山東省主席に任ぜられた沈鴻烈は韓復榘が刑場に於て銃殺されたその日の午後二時徐州を出發山東省の某地で後任式を挙行した、韓をして恐縮の主人公たらしめた主なる原因は前任者に於ける濱海に堅固なる地盤を築き持つた鐵の為め常に青島の地盤を脅かされた沈鴻烈は終介石代表として韓を監視しつつあつたが、前日韓と氣脈を通じて前介石の隙に乗じ反旗を翻さうとしたものので、若し韓の實任を問はれるなら軍事問題となるべき所を一は銃殺に主席に任せられ而も同日同時刻に着手し任行はれたことは誠りにも恐ろしい現象と言はれてゐる

長岡氏金瓜石を視察

【瑞芳電話】貴族院議員長岡隆一郎氏夫妻は二十七日午前十時三十八分瑞芳駅着列車にて來場、後藤金瓜石鑛山部所長の案内で金瓜石鑛山に向ひ、同鑛山及び水湳洞製鍊所の視察を為し帰途瑞芳鑛山に一泊して午後五時二分瑞芳駅發列車

濱口汽船の昭廣丸

北海道西岸で難破

乗組員三十一名は絶望

【小樽二十七日發同盟】二十六日午前十一時五十分北海道西海岸島

島猪谷湾にて大阪商船濱口汽船會社所有民船昭廣丸(二、二三

四噸)は暗化のため漂流しSOSを發して漂流してゐるのを發見救

である

非常に結構

第二中學の父兄並びに學校側

右に關し第二中学の父兄達に学校側の意見を綜合すれば次の通りである

本問題は自分が一中一女の生徒であるとか二中二女の生徒であるとか又は口の子供が一中一女にあるとか二中二女にあるとか自己の立場に立つて論議すべきものではなく多数の生徒達の将来の為め国家の利益の点に立脚して考へるべきものである、現在の如く何事以内のものでは我が国に行けない様な状態には一中一女以外の學校は益々発展され大多数の生徒達の心もいけて来るだらうし又新興小公校の優等生でも門前からの分も入れれば満員の盛況である、学校は元より教育機関であるから学生は百九十名内外の少数の方が教育上理想的であるが、理屈的にはいゝが断行するには至つて困たものので、二中、二中などに成績順に配分されると、二中に入れて居た本島人生徒も入れなくなつて、全體から見ると内地人が断然人数が多くて、本島人が仲々学校に入れなくなりはしないかといふ懸念があるので、それを実際問題としてどういふ方法でやるかといふ点は仲々難かしい問題だ、扨てから合同試験の事は考へて居たのだが、理屈的にはいゝが断行するには至つて困たのではないかといふ意見が多い様様にある

第二高女生徒の一保護者として正米市塩埕理事長山好美氏の如く語る

僕は合同入学試験の実施は教育革新を期する立場から絶對賛成である、第二に同じ官立の女學校で優劣無き先生の教育を受けながら一方女学校の他の女学校の卒業生達が全然現われ就職にも嫁入にも非常な影響を及ぼすと云ふ事は教育の本義にもとるものでこの際断然一切の差別を撤廃して合同入学試験を行ふべきである、又小學

家庭と婦人

臺灣名物

チフス蔓延の根原は本島人に在り

（上）

臺北州衛生課長　安達敬智

今年は前號に續いてチフスの話である。この傳染病は虎が倀りに動物園から市井に飛び出したとしたら一般民衆の恐怖戰慄は何うであらう。吾人は必らずや積極的に防衛の途に出るであらう、然しかやうな危害恐怖は極めて稀々たるものであり傳染病菌の細菌も狹いのである。

吾々は目に見えない病菌自體よりも病菌にあつて生命を翻弄して居る强敵傳染病に就て最も恐怖する必要がある。その恐るべき最なる危險物の此ではないのである。

×

昭和十一年度間に於ける傳染病患者は、二三九、九七九名、死亡者二七、六九〇名と云ふ驚くべき數に上つて居る世間で一向驚かないのは寧ろ不思議な位である。之に對する民衆の關心は極めて稀薄で病魔には全然無關心に等へて居る。警告を待つて居しい、最近國民體力向上の聲高らかなる折柄傳染的衛生たる防疫の勵行より聞することの出來ぬ事は實に遺憾千萬である。

新年早々傳染病云々と縁起でもないと云ふ人もあらうが、之れ又縁起でもないとは思つたのであるが最近の情勢に鑑み且つ新年初頭に於て各位の自覺と協力を期待するの意味で敢て筆を執つたのである。

殊に昭和三年度に於ける傳染病の比較的低い者の多い本島人の無關心と相俟つてチフス蔓延の根原をなすものと推斷し得るのである。

本島人に多い

傳染病豫防に於けるチフスは勿論、傳染のものであるかの如く考へられて居た。それは本島人非衛生を食べず煮燒して食べることと飲料的傳染經路によるものと斷定し納得せられて居たのである。

然るに昭和三年度に於ける傳染病患者が臺北州下に於て一萬人に對し一五・七人の多數を算し、其の中チフス患者は一、七七九名の多數を算し、其の中チフス患者は一、七七九名の多數を算し、其の中チフス患者は一、七七九名の多數を算した。

新漫畫　ちゃん　豫告

川原くにを

ごあいさつの言葉

地上に於て　最も速きもの　これは初耳

人間の走る速力といふものは、その音に於ては動物にも——たとへ兎駆しまうになどにも——劣つたものであつた。

然が、或る天才的な人間が車輪といふものを發明して以來、その速力はすばらしい進歩を遂げたのである。

文明社會の傳へるところに依れば、原始人は丸太を曳き、その上に物を載せて、轉がしながら運搬したといふ、車輪の發明はここに由來するわけである。そして車輪發明後の人類はその速力に於て、もはや動物の及ぶ所でない。一九三七年に實現されたスピードの新記録はイーストン氏の操縦せる流線型自動車"雷鳥號"の出現であるこれは實に時速五〇一キロ一七七といふすばらしい大速力を記録した。これこそ、今日の地上に於ける最も速きもの……

して妄想に在るか

（死體檢案により發表）

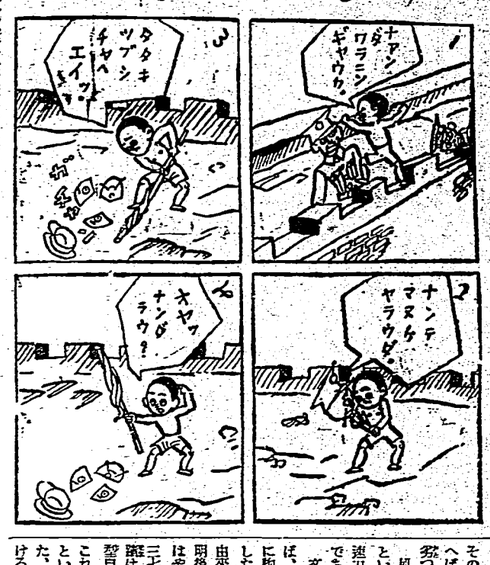
昨年台北州下に於ける死體檢案及死亡診斷書中の一部分を示し、種々に對し再檢案を實施した結果、三三名のチフス患者を發見した。勿論全部本島人である。この外未檢一二名、流行性腦脊髓炎三名が發見して居る。而して診斷書（生前醫師の治療を受け居りし者）中の發見患者二名、死體檢案者（死後醫師の檢案によるもの）中の發見患者一〇名、年齢別に見ると五歳未滿が一六名を占め、死亡當時の病狀別では昏睡が良と云ふのが最多で八名に達して居る。更に之を

本島人患者の死亡率が非常に高いのは何故か

既往十箇年の死亡率に於て本島人は二六・八%、內地人は一七・

（87）

漫畫　ちゃん　豫告

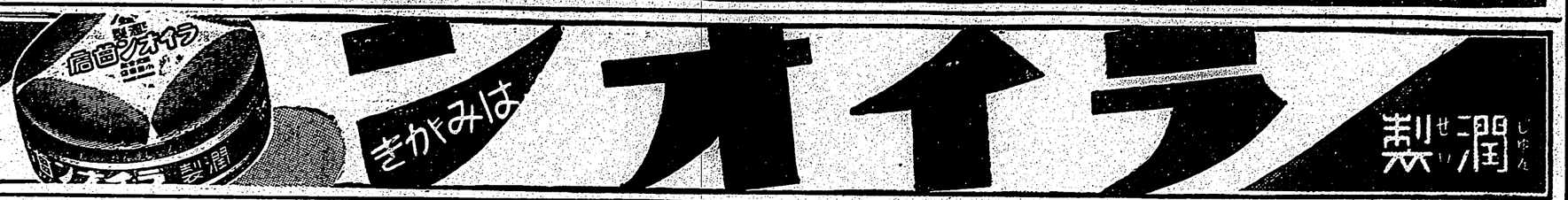


問訪中陣の錦王

りくつびもイチツミ々艶は肌の綱横

二所の關部屋の力士でニコ〜與の二人。

ムーソワータスマ（パニシング）



に本日

が一キスサウーリトンサ

……上以るあ

すで用無はーキスサウ來舶

氣候風土の關係上、英國以外に良いウヰスキーは出來ないとされてゐました。然し日本も英國も溫帶にある島國で氣候風土は酷似してゐます。日本にも良いウヰスキーの出來るのが當然です。

★

日本でも特に攝津山崎一帶は、曾て調査の結果、英國ウヰスキーの本場ローゼス峽にも劣らぬウヰスキー醸造の適地であることが分りました。サントリーの工場は此處に在ります。

★

山崎、山中に湧く清冽な水はウヰスキー用水として理想的なもので、日本酒で謂へば灘の宮水に當ります。サントリーは勿論この水を用ひました。

★

ウヰスキーの原料大麥も英國種が良いとされてゐました。サントリーでは英國種に更にゴールデンメロン種を接種、內地に栽培して一層向上した品種を得ました

★

ウヰスキー醸造法にポットスチル式といふのがあります。その工程、入念を極め手ツ取り早い醸造は不可能ですが、純粹芳醇なウヰスキーを得るには最適です。サントリーはこの方法に依りました。

★

本格ウヰスキーは古いものほど良いのです。サントリーは醸造後、七年乃至十年を、山崎、山中の酒庫に貯藏し、其間、此處の清澄な山氣と、氣候風土の理想的な條件に惠まれて、よく舶來品を凌ぐ香味の熟成を見たのです。

●角瓶は十年貯藏
●丸瓶は七年貯藏

國定忠次 (164)

（上場）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

老婆（田）「おさん、あれは昌兵衛のお爺だと」

「叱ツ」

お町はジャガ竹の腕を引ッぱり火の見櫓の根に隠れる。

昌兵衛の光りに照らされて、隠れないでもない。

昌兵衛のやうに歩いてゐる昌兵衛の老体は片手に新しい卒塔婆、片手に赤包み持ち、雪を歩むやうな足どりでしかも、沙さは驚異である。

老婆が近づくに従ひ、お町とジャガ竹、先づ、振乱した老の短かい髪の毛に気がついた。次で、眼の即ち通つて行く老の眼が、

「おさん、聴、聴さん、気が！」

「叱ツ」

昌兵衛を引いて日走るジャガ竹の声に、火の見櫓の即ち通り越した老婆の耳にはひつたのかして、立停まるより早く首だけ後つて二人の方を見た。その顔が、鬼かと思ふばかり凄い。

老婆は口を開いて何事かした。聞らくして震れた声で、

「だれやそれ？」

二足、三足つて訊いた。二人は眼を見合せてゐる。

「だれやそれ？」

「だれやそれ？」

一足、三足つて再び訊いた。

ジャガ竹に向いて眼だけ老婆から離れた。お町は火の見櫓の根本に片手で縋ると、何かいたうとしたが声は出ず、膝を折んだ。

つゞかと老婆が二人に近づいた。

「ご二人とも出次でやすた」

「ええ、何をいふんだお婆さん」

と、お町がしどろもどろにいふ間に、老婆は顔を近づけて、

「ええ加減で宿ひやした。おら、今これから行く処でやした。おら、武士まで行つて来やした。はい。あしこの墓地様さまにおらが亡主知めてあるだしつ、先輩様もござる行つて来やした。聴さん出て来やした。昌兵衛どうしたと聞いて自分で墓されやしたこれといふも出次が悪いからやすといふと益こんがられが云ふ通り悪次が良くねむといやしたに。

「嫌さんがいぶに、わむこれから出次の処へ行つて、昌兵衛に告れ

「おらも、悪次の処へ、ヲツ殺してやる！」

飛りかゝつて、片手の卒塔婆で大地を叩いた老婆がぼつきり折れた。

「悪次ヲツ殺されたではいかねえでやす。あれがるとの子ぶみんで目標は前財かりやして、終りには仇討の時に親の恩仕じられて、ぶ知の爪を蒼くなるでやすぞ」

と、庇け廻りはじめた。

お町は眼をぱちくりやつてゐる、驚めるにも言葉がない。

「お婆さ家の昌兵衛くらあの俥のやうだ、即貧がそう、そのな男の子が大きくなつたら俥はするそれをでやすて、だらお兵衛は温和い子でやしたが、悪次の照着に手なづけられやして、悪にになりやした。悪次は照着でやすから仇断も晴らされねえです」

お町がヤッとロが開いて、

「お婆さん、そりやいけねえ。親分を照着はりして仕留め合ねえ。いくら貧が驚れたからつてそれではお町」

「さうでやすか、昌兵衛が歩いてう、さうでやすか」今夜れ、ほ

ジャガ竹が驚嘆と共に心を落着けた。

「おさん、ひでう顔になつたよこれた」

「見ろ、馬鹿、この際さんがこんな顔になつたのも、元はうぬのお喋べりからだ」

「こんな時はねえよ。通かれ早かれ気遣ひになるものはなるよ」

「何だア。うぬはまだ思いと思へねんのが」

「思へねえよ。筈が嘆れたの早かつたか遅いかだけの話しやねえか」

「人情なことをよく云へた」

と、お町が拳を固めてジャガ竹の顔を叩かうとする、と、老婆が間に割つて。

「おさん、ひでう顔になつたよこれた」

「見ろ、馬鹿、この際さんがこんな顔になつたのも、元はうぬのお喋べりからだ」

「こんな時はねえよ。通かれ早かれ気遣ひになるものはなるよ」

「何だア。うぬはまだ思いと思へねんのが」

「思へねえよ。筈が嘆れたの早かつたか遅いかだけの話しやねえか」

「人情なことをよく云へた」

と、お町が拳を固めてジャガ竹の顔を叩かうとする、と、老婆が間に割つて。

洋畫界近信

英國で出上海映

藝と製作

「ラ那ランプの百面相」に先はれた地平線会議」に先行「大地」等東洋物に続して「脱線した作品を設表提供したアメリカ映画界では異に支那俳優が活躍「上海の假与上海の西与上海の北」等好評を博んだ支那映画の現作に着出してゐるが、今は英国ニテヤウントにでもパインヤップ撮影所で新に支那ふと

『北京料理』の話

石井漠

北京料理はおいしい。支那料理はおいしいと、新聞記者の一人が話した。

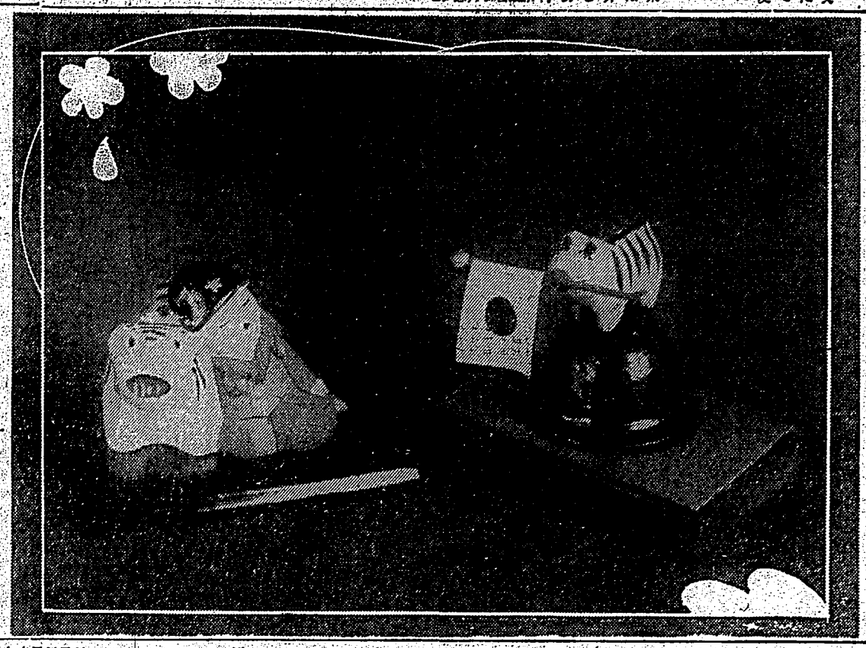
大学教授の連作に招待されて、食卓を囲んで歴談的に満洲の茶話をするのが常であつた。そして、その食卓で供せられた北京料理は殆どすべて非常に言ひつた。歴史支那料理を解しない。従つて料理の名も判らない。まして、その料理が如何にして作られたかも判らう筈がない。ただ、魚の鳥か、獣かた位かたか掛けたかが差うじて判るだけで、元旦料理でただ茶碗さに驚嘆したのである。

日本料理にくらべ似に、大きな特の料理は総じ旨かつた。身の即子と言へばさりのやうな紅燒魚翅などには一匹もお目にかゝらなかつた。

婆内後の副食行で臭れた記者の感じは、若し日本酒を酔す前初な人であつたから、僕に向くやうな甘味のものを多く選ぶやうに注意して臭れたのかも知れないが、どれもしつこみと言ふのは、北京料理は和やかで上品で、慣覚の深い味を持つてゐるとの感じを抱いた。

隣客の話によれば、北京には特有の料理、廟料理、などを地のものがあるといふのはない、廟州料理、廟料理いふものはない、廟州料理、廟料理、などを地のものが流れ込んで来て、永年の間に淘汰されたのが、今日の北京料理であると云ふのだ。丁度日本の東京のものと同じなのであらう。ただ北京と異つては魚が遠ふ。北京は老大人である。それだけ豆腐であり、繊維としたものがある。北京料理の持つ和やかさは、北京人の性格の上に現はれてゐるものと思ふ。

北京料理の持つ和やかさは、北京人の性格の上に現はれてゐるものと思ふ。僕は言葉は解らないが、普の持つ美しさを感じ、北京人に会つて話をしてゐる間に、北京料理の持つ和やかさは、北京人の性格の上に現はれてゐるものと思ふ。僕は言葉は解らないが、普の持つ美しさを感じ、北京人に会つて話をしてゐる間に、北京料理の持つ和やかさは、北京人の性格の上に現はれてゐるものと思ふ。僕は言葉は解らないが、普の持つ美しさを感じ、北京人に会つて話をしてゐる間に、北京料理の持つ和やかさは、北京人の性格の上に現はれてゐるものと思ふ。



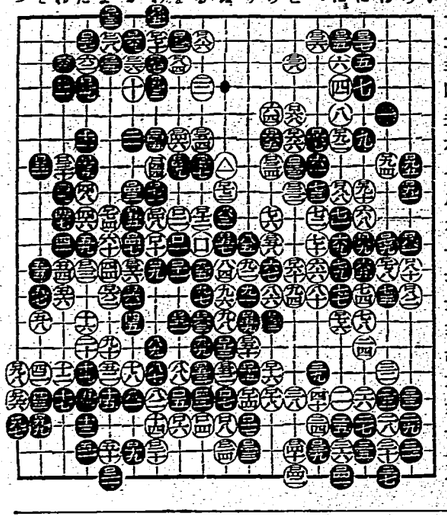
わが世を誇る虎君……玩具集（十四）

……百円——（左）は虎を枕に唐影の夢（右）は陸兎の虎……

有段者十人抜碁戦（第二次十七局ノ五）

本社主催

白勝　互先
十三目　初段
二目同　初段
同　白深堀
（出ミコ半目）　四段
土
義房
隆雄



囲碁

将棋

文字三題

△敵ノ重爆撃機　十二機ガ　二十六日　南京ニ

クウシフシテ　キマシタガ　ワガ海軍機ガ

コウゲキシテ　三機ヲ　ウチオトシ　マシタ

死體ケンサデ　ソ聯人ト　ワカリマシタ

△中支ノ戦野デ　メイヨノ　戦死ヲトゲタ　鈴木少佐以下ノ　ミタマ　ハ　二十六日　原隊ニ　無言ノ　ガイセンヲ　シマシタ　二十九日　午前十時カラ　原隊デ　コクベツ式ガアリマス

棋況（廿七日）

臺灣正米市場前場

（一期延米）
当　中　先
一三　一三　一三
一三　一三　一三
一三　一三　一三

（第二版）（原隔航版）　（明治一一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十三年一月二十八日（金曜日）　臺灣日日新報　第一万三千五百九十七號

臺灣日日新報

本日夕刊共十二頁
社長　佐々木　貫　人行設兼編輯
知事官舍前町四丁目一番地
社報新日日新聞　所行設
定価一部六錢　一ヶ月分金二十五錢　一ヶ月分金八圓　一ヶ年分金二十五圓　一ヶ年分金八圓　一ヶ年分金二十五圓　一ヶ年分金八圓　一ヶ年分金二十五圓
電話　代表局　三〇五一番　編輯局　三〇五二番

社說

將來多事なる臺灣の製鹽業　官民一致の努力が必要

本年の豫算に製鹽業の發展に關する幾多の重要なる施設につきそれが資料たる工業鹽の需給關係を明確ならしめ增加を為し所要なる增殖の計畫を樹立する必要がある。而して內地の鹽業は從來の關稅政策の下に保護されつゝあるに對し臺灣の製鹽業は關稅の保護なく、且つ內地鹽業の發展は臺灣鹽業の發展を阻害するの傾向あるを以て、臺灣鹽業の發展は內地鹽業の發展と相俟つて國策の線に副ふ樣考慮せらるゝを要する。

臺灣の製鹽業は從來內地鹽業の發展を阻害するの傾向あるを以て、內地鹽業の發展は臺灣

十二年中内外貿易 飛躍の實績 (二)

輸入では肥料の激減目立つ

重要品別の調べ

輸入品

十二年中外國からの輸入の部は四千四百二十二万円で前年の四千八百八十万円に比し實に四百六十二万円約二割方の激減を示したが之に反し輸出の方は十一年の二千万円に比べ二千四百万円約二割方の激増を見せたので輸出入總額は六千八百四十四万円で前年の六千八百八十万円に比し僅かに四百六十万円の減少に過ぎず輸出の激増が輸入の激減を補つたのと外國貿易の躍進による所謂大正ブームの如くではない

輸出品

でありその輸出品は一億八千七百八万円に止り前年に比し一億二千二百九十二万円の減、價格にだけは一千万円餘の減となつた、大正は價格高にも拘らず數量價格とも増加を見せたが之に反し昭和は數量の激増と價格の暴落とを示したが輸出のため内地輸入品の激減したのと外國貿易の躍進による所謂大正ブームの輸入が絶したに反し昭和は輸入が取つて代つたが價格暴落のため數量激減した、數量増加の品目は米、砂糖、肥料、セメント、鐵、石炭、木材、硫安、マッチ、ゴム製品、ガソリン、鐵鋼、ビール、ソーダ灰

重大の決意

二月豪華特別號　特價一円二十錢

帝國の大陸政策

益田豊彦

鮎川義介と對談

和田日出吉

支那事變は世界大戰に發展するか

會談座

出席者　大場彌平　倉進　中保與作　長谷川了　森茂雄　唯士　水野廣德

世界は今や明日の大戰の準備を急いでゐる！何時何處でその爆發を見るか解らない。豫想さるる發火點は擴りゆく支那事變のみではない。中歐の風雲は日增しに急を告げてゐる。軍擴完成の一九四二年の危機を注視せよ！

長期抗日は可能か

ダーリン政權の將來

横田實

英帝國

益田豊彦

支那事變と日本の使命

山本英輔

新疆運動の解剖

喜多六平太藝談

我が國民性の缺陷

長谷川如是閑

事變の影響と我が戰時經濟の動向

秋季藝文

二月特別號

◆山崎の合戰　大場彌平
◆ドイツ人とフランス人　辻二郎
◆北京の文人　村上知行
◆南京閒話　井上紅梅
◆スキー◆山◆溫泉◆囲碁◆將棋◆演劇◆新民謠◆釣◆俳句◆等

上田秋成

研究　佐藤春夫

Aの妻・Bの夫

小說　上司小劍

海路

小說　長與善郎

話の屑籠

菊池寛　正宗白鳥　今日出海

文藝時評

巴里だより

隨筆

東城書伯の傑作　小笠原長生
赤樫の實　高野辰之
風呂の話　田中阿歌麿
海國兵團出版の裏面　藤塚鄰
林檎の種子　植田保之助
語の轉化　石黒修
標題の問題　野上豐一郎
近所で折々會ふ人　湯田青楓
海軍さんの手紙　長谷川伸
彩色醫學その他　上滝復興問題に就て　島田謹夫
支那の大學を訪ふ　中村哲
寒山寺を訪ふ　中村古峽
珍都河　吳漫畫

新聞動員未し

◆新聞動員實行進曲と悲劇（ラヂオ）

大衆的な結婚

社會時評　河野密

南京從軍入城

紳士と文　中川紀元

パアトンネル

◆日本の降到

御好ゆうもりすと座談會

田所著　風流クラブ同人

實話　ナリン殿下の回想

◆都市圖◆

南京從軍記

小坂本記

南京攻略戰從軍記

小坂本記

弄ばれた電力管理案

白河龍太郎

左翼轉向者の見た北支

中村義郎

慰問團奇聞

唐山虎吉

南京脫出記

リリー・アベック

俳句

冬春七景　村上鬼城
後方　山口誓子

短歌

冬から春へ　吉井勇
冬　山守都野研

人物紙芝居

◆廣瀬久忠◆◆武原彪之助◆◆武藏山◆

特價六十錢・文藝春秋社

東京市麹町區有樂町一ノ一ノ二　電話丸ノ内(23)七〇六一番

送風機排風機及各種耐酸用排風機

設計製作專門

株式會社　大阪送風機製作所

大阪市西成區津守町四丁目二三　電話櫻川三六二五・三七〇一番

喘息エキス　きせ

咳日百・息んぜ

ルーロカッシ

バイオリン尺八ギター・マンドリン・ウクレレ

子の笑顏